

「前向きに生きる自信と勇気を育む母親に、エールを！」へのエール

当 HP の「前向きに生きる自信と勇気を育む母親に、エールを！」の記事で引用させていただいたお母さんへ、早速エール・メールをいただきましたので、紹介します。

更にエールをいただきましたら、随時追加掲載させていただきます。

2007. 5. 5. 阿部幸泰

③HPのお母様、私もいつも同じ気持ちでいます。

障がいは違っていても、子供のことで悩んだり、落ち込んだりが少なくないと察することが出来ます。

私も今、事にあたっていますが、HPを拝見してすがすがしく感じています。

悩んでスタートに留まるより、行動に移し先を目指したいといつも思っています。

時に思うように進めないときもありますが、それでも新たにかかわりを持ってくれる方が現れたりして嬉しいこともあるものです。

こちらは関係者と話し合い、理解して頂くところから始めています。

いつものことながら、対処改善まで行き着かなくとも、知ってもらい懸案項目に入れていただくのも前進です。

そうですね？

特別な支援が必要な子も、そうでない子も、どちらにも違和感の少ない教育環境が整えられるよう願っています。

それには、たくさんの意見が土台となっています。

どうか、学校にたくさん思いを伝えて欲しいと思います。

② HP サイト読みました。

母の思いと社会的役割を自らが発信する発想と動きに拍手です。

一方自らが発信しなければ、まだ理解はされないのですね…。

学校はもっと近かったのではなかったのか…。

当たり前の母の思いは、共通な姿ではなく特別な動きをしなければ、まだまだ周りに伝わらないのですね。

①HP拝見致しました。

お母さんのお気持ちを拝読させて頂いて、先日、地域でお世話になっている方の事を思い出しました。

私の隣の町では、公立の幼稚園、保育園の入園に際して医療的ケアが必要なお子さんについては入学を拒否されてきました。

この町が中心となって3月に合併で市に移行する事に際して、改善をと署名活動の結果、一週間の活動で6千人近い支援があり議会に請願しました。

結局、要望は実現しませんでした、週に一回だけの交流が認められました。

お母さんのお話では、この交流を通じてクラスのお友達に息子が伝えたかった思いや、逆にクラスのお友達にとっての疑問に対してオープンに説明する事で、特別な存在でなく一人のクラスメートとして接してもらえる様な橋渡しをしないと、紙芝居を作ってクラスで語りかけていきたいと話しておられました。

このお母さんには、以前頂いた明石さんの原稿をお渡ししていたので、すごく勇気づけられ自身の今後の励みになったとおっしゃっておられました。

お母さんのお話によれば気管切開児が地域の幼稚園に交流で通園できる様になったのは京都府内で初めての事だそうです。

今回の事を契機にして、地域で入学できないでいるお子さんが今後は安心して入学できる事を願って交流を通じて子供達との係わり合いを育んでいきたいとおっしゃっておられました。

地域のお母さんといい、HPのお母さんに、すごく大切な事を教わりました。

子供達を目線になって係わり合いを育む事の大切さ、そして出来る事を考えて周りに思いを伝えていく勇気が、とっても素敵ですね。

子供達の願いに向き合ってもらうために橋渡しできる事を、自分でも考えていきたいで

す。

追伸：

記事で紹介したお母さんから、HPに掲載した記事を見て、次のようなメール。

【 HPへ掲載有り難うございます。

いろいろな事を考えても、一歩踏み出せなくて空想だけで終わった事がいっぱいありました。

でも、不思議ですよ、阿部さんとメールをしてから一歩踏み出せるようになりました。

やっぱり、阿部さんは凄い人、不思議な人で～す（^-^）

色々な面で自信が持てるようになりました。ありがとうございます。 】

お母さんへは次のように返信した。

【 僕が凄いのではなく、お母さんが自ら気づき、自ら行動してるのですから、お母さん自身が凄い人。お母さんの中にいた「凄い自分」を誉めてあげてくださいね。 】